

小城市立 小中一貫校 芦刈観瀾校 学校便り 9月12日号

ともに



【文責】 校長：本村 正信 副校長：勝原 理

体験から学び 本物から学ぶ

9月に入ってすぐ、9年生は広島方面に2泊3日の修学旅行、5年生は北山少年自然の家で1泊2日の宿泊体験学習に行ってきました。どちらの体験学習にも共通することは、日常生活を離れ、クラスの仲間との集団生活を行うこと、書籍や映像・話でしか知り得なかった人・物・ことについて本物に触れ、体験することです。集団生活は、相手への思いやりと我慢が必要なことを気づかせてくれます。また、本物に触れる経験は、今までの思い込みや偏った見方を修正し、大きな感動を与えてくれます。そのほかにも、多くのことを体験学習から学ぶことでしょう。今まで学んだ知識が、体験を通して本物の力となって子どもたちに定着してくれることを願います。

【9年生 修学旅行 広島・山口方面】



1日目 広島 平和公園にて



2日目 広島 宮島にて



3日目 安川電機にて

【5年生 宿泊体験学習 北山少年自然の家】 児童の感想

わたしは、宿泊体験学習でいろいろなことを学びました。いつもはお母さんが作ってくれるごはんも、グループでカレーと白ごはんを作ると何分もかかりました。いつも短い時間でたくさん量を作っているお母さんは、すごいなと思いました。これからは、手伝いをたくさんしようと思います。ほかにも、自分たちでおふとんをしいたり身のまわりを整理したりいろいろなことを自分たちでしました。いつもは、自分たちであまりしないことを宿泊体験学習で試みて、お母さんやお父さんがいつも仕事から帰ってきて、こんなことをしているのかと思いました。宿泊体験学習に行っても親にふたんばかりかけているんだなと感じました。これからは、少しでもふたんを軽くできるようにしたいと思います。



(5年 坂井 愛華)

9年生 保育体験ですてきな笑顔

9月12日（水）に、9年生は「あしかりこども園」に保育体験に行きました。これは、家庭科北先生の学習の一貫で、現在、中学学の家家庭科保育領域では、乳幼児の心身の発達、幼児の生活と遊び、親・家庭・地域の役割などについて学習を行った上で、乳幼児等との触れ合い体験学習を行うようになっています。この触れ合い体験学習は、近年、家庭や地域において異世代の子どもが触れ合う機会が減り、とりわけ乳幼児と触れ合う経験が少ないまま親世代になっていることが問題になっていることと関係しています。限られた中での交流ではありますが、中学生も幼児も、純粹にふれあうことを楽しんでいるようでした。

9年生たちは、夏休み前から幼児が楽しんでもらえるように様々な準備をしていました。「的当て」「魚釣り」「宝探し」「ボーリング」「パズル」「輪投げ」「メダル当て」「モグラたたき」など、幼児たちはたくさんのゲームをみて、大喜びでお目当てのゲームに向かっていました。中学生も、幼児のお世話をしながら、いつも以上にすてきな笑顔があふれていました。こども園の先生も「芦刈の子どもたちはとっても優しいですね。」と中学生をほめてくださいました。



3年生 秋冬野菜を植える

9月11日（火）3年生は「芦穂会」の皆さんの御協力を得て、秋冬野菜の種を植えました。3年生は、年間を通して「芦穂会」の皆さんに手伝っていただき野菜作りを行っています。今回種まきをしたのは、「白菜」「小ネギ」「ゴボウ」「大根」「ほうれん草」「にんじん」と苗で「ブロッコリー」を植えました。収穫した野菜で、年明けに「豚汁会」をすること。自分たちが育てた野菜で作る豚汁はさぞかしおいしいことでしょう。また、定期的に成長を観察すると共に、みんなで協力してお世話する中で、たくさんの発見をしてくれることを期待しています。

